長野県議会
改革・緑新
会派だより
第2号　（2007年）平成19年 11月
発行・編集／改革・緑新
長野県庁県議会棟内（026）232－0087
発行責任者 倉田竜彦　印刷所 中外印刷KK
http://www.kaikaku-ryokushin.com

台風・地震の災害復旧など 13億円余の補正予算等全議案を可決

9月定例会

九月定例県議会は、9月27日開会し、10月15日までの19日間の会期で開催されました。

台風や中越沖地震の災害復旧費を中心とした13億円余の補正予算案、県税をコンビニでも納税できるようにする県税条例の一部改正案、人事委員会委員、教育委員会委員の選任の人事案件など全議案を可決しました。

また、議会の名において「地方が真に必要とする道路の整備促進に関する意見書」などを採択しました。

医師確保、中期総合計画、「森林税」など活発に議論

七人が一般質問

小島議員は、中山間地でも安心して暮らし続けるため、個人の財産への災害復旧支援、道路の改良の推進、入札制度の改善、地域間格差の解消を訴えました。

高島議員は、産科医不足の背景、医師の勤務実態を質し、院内助産所をはじめお産の環境整備と助産師の活用、こどもにかかる施策の推進体制の強化等を訴えました。

下沢議員は、診療科名の見直しの問題点を質し、大学や医師会との連携の強化を要請。また、保健医療計画の成果を確認し、輸血用血液の確保などに言及しました。

寺島議員は、台風9号による倒木被害が多いことの原因を質し、電力会社も含めた「対策会議」の設置を確認。高校の適正規模と来年度募集定員についても質しました。

竹内議員は、パブリックコメントの指針の策定、文化芸術振興のための条例またはビジョンの策定、中期計画における県民参加の事業評価制度について提案しました。

森田議員は、「森林税」に関して水源を利用している152発電所に協力を求めるよう提案。**鳥獣被害対策**では県下148**地域の鳥獣保護区**の改廃と縮少の見直しを強く訴えました。

宮澤議員は、廃棄物処理施設の問題や災害時の業務継続について質問。産業高校の設備や機器の更新が要望の四分の一ほどしかされていないことを厳しく追及しました。

議会開会中は様々な陳情・要望等をお受けします。（改革・緑新控室にて）

「嫡出推定」は記名投票 30対27で可決

17意見書を議決

一般質問最終日の10月5日に開いた本会議では、議員等提出の16の意見書を可決しました。そのうち、我が会派から提出した「嫡出推定に関する民法改正と、更なる運用見直しを求める意見書」案は、記名投票の結果、賛成30票、反対27票で可決されました。

提案者の一人、高島陽子議員が登壇、提案の趣旨説明を行いました（＝写真）。民法772条にある「嫡出推定」の規定によって、離婚後300日以内に生まれた子が「無戸籍」となり公的サービスが受けられない不利益が生じている状況を述べ、子の福祉が保障される立場から、戸籍法や婚姻に関する法律との整合性を図ること、現実に即した法改正を求めると同時に、改正までの間に通達で救済範囲を広げること、親子関係の不存在確認の家事調停および審判手続きの簡略化見直しを要請するよう訴えました。

各委員会の審議論点

各委員会とも10件前後の課題について議論してきました。中から各3つの項目を抽出してみました。

★文教・企業委員会
- 高校再編地域合意のあり方について
- いじめに関する体系的指導について
- 公営電気事業の民営化について

★土木・住宅委員会
- 地域状況を考慮した入札制度改革について
- 浅川ダム水理模型実験対応について
- 信州型エコ住宅の具体化について

★商工・観光委員会
- 商工部・観光部の数値目標について
- シルバー人材センターへの支援について
- 廃棄物の適正処理の確保等に関する条例対応について

★農政・林務委員会
- 品目横断的経営安定対策と加入要件緩和対応
- （仮称）森林税について
- 野生鳥獣被害対策

★社会・衛生委員会
- 福祉人材確保と処遇について
- 産科医確保と助産師の活用、院内助産所対応
- 県としてのBSE対策について

★総務・警察委員会
- 県庁（本庁）組織の再編について
- 中期総合計画と知事の意志について
- 指定管理者制度の実態について

◎請願・陳情審査結果

請願は採択7件、不採択1件、継続9件。陳情は採択55件、不採択4件、継続37件。陳情不採択の1件は本会議にて継続審査となりました。

中部横断自動車道や神流川発電所を視察

今回の会派の県内視察は東信方面へ、8月6日・7日の日程で行いました。調査項目は「中部横断自動車道の進捗状況」と「東京電力神流川発電所の環境への取り組み状況」等です。

「中部横断自動車道」については、東日本高速道路㈱佐久管理事務所にて説明を聞いた後、佐久ICから佐久南ICまで現地調査を行いました。この区間は用地買収率も92.7％進み、平成18年9月には追加IC連結許可がおりています。今後大きな進展が望めます。

「神流川発電所」は南相木村にあり、群馬営業所の担当者から現地説明を受けました。環境への配慮がすばらしく、ダムは中央土質遮水型フィルダムです。平成17年に1号機が運転開始しており、今後さらに2号機から6号機が完成し、運転を開始すると世界最大級の揚水式発電所となるとのことですが、県内には配電されません。とても残念なことです。

決算特別委員会 公共交通対策特別委員会を設置

今議会では、平成18年度決算を認定するための「決算特別委員会」と、長野以北並行在来線の存続問題や松本空港活性化等に取り組むための「公共交通対策特別委員会」が設置され、「改革・緑新」からそれぞれ3名が選任されました。

決算特別委員	公共交通対策特別委員
宮澤　宗弘（安曇野市）	竹内　久幸（長野市）
小島　康晴（飯田市）	小島　康晴（飯田市）
髙島　陽子（長野市）	下沢順一郎（松本市）

小島康晴の県政レポート VOL 2

飯田市高羽町3―1―7　TEL・FAX(0265)23-5388

9月県議会 一般質問

中山間地域で暮らし続けるために 各圏域の均衡ある発展をめざして!!

今議会では、地域における台風の災害状況などもふまえ、中山間地域においても安心して暮らし続けられるために、また、どの地域にあっても県政の効果が等しく及ぶようにとの立場から、以下の項目について一般質問を行いました。

被災した個人の住宅等の復旧支援について

【小島議員】台風４号などによる被害をみても、中山間地域は住宅の数が少なく、「被災者生活再建支援制度」の対象になりにくい。このままでは災害のたびに地域が崩壊しかねない。長野県独自の支援制度を検討すべきだ。

【危機管理局長】概ね５年に１回という制度見直しの時期も迎えているので、国会の論議を注視したい。個人の資産形成に公費を投じることには様々な議論があり、慎重に検討していく必要がある。

道路の改良・整備について

【小島議員】県が管理する道路の「改良率」の差が大きすぎる。県全体の平均が75.7％なのに飯田地域は63.1％である。「改良率」とは、どのような基準で算出し何を目的としているのか。地域によって大きな差が開いている原因は何か？この差を縮めていくつもりはあるのか？

【土木部長】「改良率」とは、道路構造令に基づき改築された道路の延長比率で、道路整備の進捗度合いを判断する上で基本となる数値のひとつである。飯田地域の改良率が低いのは、山間部を通過する道路の割合が高く、交通量に見合った整備をしても改良率には反映されにくいからである。過去10年の伸びは県の平均を上回っており、差は縮めている。

【小島議員】県民の生命・財産を等しく公平に守るという観点に立って、各集落から病院への所要時間とか消防車の到着時間など、新たな基準で道路整備を進めて格差を解消すべきだ。

【土木部長】道路は医療や減災のみならず、産業福祉、教育といったあらゆる施策を支える根幹的な施設である。現在策定中の中期総合計画では、路線の機能、道路整備の状況、費用対効果、計画の熟度といった共通指標を設定し、さらに地域がおかれている現状や道路固有の課題も加味した上で総合的に評価し、整備箇所の選定を行っている。

本会議で一般質問を行う小島康晴議員

入札制度の改善について

【小島議員】災害復旧や除雪で地域に貢献している建設業が苦境に立たされている。災害復旧工事と同様に、10ブロックごとの入札にして地域の仕事は地域の業者に任せるべきだ。10ブロックの入札で具体的に何か問題があるのか。

【土木部長】地域に貢献している企業に配慮しており、「総合評価落札方式」では約9割を地元企業が受注している。災害復旧以外の工事を10ブロックに変更することは、意欲ある企業の応札機会が制限されることや、参加可能な企業が限られることによる競争性や透明性の確保が懸念される。

県営産業団地について

【小島議員】県営産業団地の現状と今後の進め方について、各圏域ごと公平に配置すべきだ。市町村の同様の取り組みにも県として支援すべきだ。

【商工部長】３つの分譲中の団地の処分を全力で進めたいので、新しい団地の整備に着手する環境にはない。市町村の取り組みへは、許認可等の手続きを迅速にするなど、きめ細かな支援を行いたい。

地域間格差の解消について

【小島議員】２００万県民が、どこの地域に住んでいても、その生命・財産の価値は同じはずであり、県土のバランスある発展をめざすよう、中期総合計画に格差解消を明確に位置づけるべきだ。

【村井知事】山間地域の深刻な状況は認識している。中期総合計画の策定にあたっては、産業の振興とともに、福祉・医療・教育という住民に身近なサービスが偏りなく提供され、県民が安心して暮らしていけるように、各地域の現状、特色を踏まえた、県土の均衡ある発展をめざしたい。

遠路傍聴においでいただきありがとうございました。

傍聴いただいた皆さんと議会棟前にて

今回の一般質問には、南信濃の有志の皆さん、東野公民館の皆さんに傍聴においでいただきました。お忙しいなか、遠路ありがとうございました。今回は地域の課題を中心にしましたので、元気が出ました。

機会があれば県会を傍聴してみたいというご意見をいただいています。今後検討し計画してみたいと考えています。

Topic トピック 課題の多い養護学校

文教企業委員会の調査で、伊那、稲荷山、小諸の、そして個人的に飯田の養護学校に伺いました。

各校の生徒の数、特に高等部の生徒の数が増えており、10年前の5割増しでパンク状態です。プレハブの教室でしのぐ等しています。

一方で稲荷山では、素晴らしい施設となっています。ハンデのある皆さんに少しでもいい施設をと思いますが、既存の施設との大きな格差には首を傾げざるを得ませんでした。

新築された稲荷山養護学校

「文教企業委員会」では…

教育委員会関係では、高校改革のその後の進捗状況について質し、11月には校長会の中間まとめが公表される予定とのことでした。

補正予算に関しては、「保育対策等促進事業」の現場への影響について質しました。

さらに、策定中の「スポーツ振興計画」と中期総合計画との整合性について、養護学校の在り方、難聴学級への支援、産業高校の施設整備、中高人事交流等について質問しました。

機構改革で、保育部門が社会部に戻ることなどについても見解を求めました。

また、企業局関係では、水道事業の市町村への移管の取り組みなどについて質しました。

各地域で県政報告会を行っています

8月8日には、同じ会派の下沢議員、高島議員に来援いただき、飯田市公民館で県政報告会を行いました。

また、8月22日には南信濃地区（学習交流センター）で開催しました。

9月25日には松尾公民館、10月25日には伊賀良公民館で開催しました。

多くの皆さんに参加いただき、貴重なご意見やご質問をいただきました。今後の活動の中で活かしていき、課題は少しでも解決できるよう努めてまいります。

お知らせ

来る12月1日午後2時半から、
シルクホテルにて、
県政報告会を開催いたします。
多くの皆様のご出席を
お願いいたします。

みなさまのご提言やご要望をお寄せ下さい。
長野県議会 改革・緑新
〒380-8570　長野市南長野字幅下692-2
電話(026)232-0087　FAX(026)231-5592
HP://www.kaikaku-ryokushin.com
E-mail:kaikaku-ryokusin@grace.ocn.ne.jp